

「都立公園の整備と管理のあり方について」＜中間のまとめ＞に対する都民意見

平成15年5月に「都立公園の整備と管理のあり方について」＜中間のまとめ＞を発表した後、都民の皆様から62通のご意見をいただきました。いただいたご意見については、極力、今回の答申に反映させていただきました。

ここでは、主なご意見の概要を紹介します。

●答申の内容を評価する

- ・たいへん良くまとまっている。
- ・今後の方向性を示すものとして大変結構。
- ・東京の顔である都立公園はいつもきれいにお客様を迎えて欲しい。その意味から、今回、量的拡大から質への転換ということはたいへん賛成である。
- ・都民の精神的肉体的健康からもこれからはパークマネジメントが重要。
- ・是非、この方向で整備と管理を効率的に行われるようになれば良い。特にパークマネジメントの考え方に賛同。
- ・特に、民間の力の導入については、東京都から日本全国に発信され、浸透、普及することを望む。

●意見

【中間のまとめ全般】

意見
○具体化について ・この答申を受けて、管理の新しい取組み、都立公園条例・規則の改正を、どのように進めていくべきなのかを明記してほしい。 ・計画を責任もって進捗状況管理を行う推進体制が必要。 ・「マネジメント」の意味が読んでもわからない。具体的に何をするのか。 ・実行策として形が見えない。遊休地、都有地の積極活用、近隣地域コミュニティへの開放などの実行面での積極的なアイデア、モデルを出してほしい。
○財源について ・経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報のうち、「カネ」についての記述がない。「バランスシート（貸借対照表）などを公園毎に作成していく」くらいの記述がほしい。 ・公園は東京という都市を引き立て、美しく彩るための施設であるのだから、お金が無いとか、人員削減だとかといった理由から管理費を削るのは止めてほしい。
○リーディングプロジェクト ・リーディングプロジェクト概ね3年間は適切。 ・「公園パートナーシップ推進プロジェクト」は、大いに賛成。 ・「情報マネジメント」に関するものを加えるべき。

【計画・整備】

意見
○全般 ・かつては、欧米の都市に比較すると、東京の公園および緑地は全体的に貧弱な感じを与えていたが、昨今はかなり改善され、喜ばしく思う。 ・整備とともに武蔵野の自然、歴史を大切に保存することをベースにしていきたい。 ・玉川上水の自然豊かな素晴らしい環境を大切に、いつまでも保全される事を願っている。 ・多摩丘陵、多摩川右岸崖線の注目度が弱い。 ・市民にとって国の担当、都の担当、区の担当のみどり空間の区別はない。それぞれが連携して、計画・立案・整備すべき。 ・市町村立の都市公園との機能の棲み分けや役割分担についても、市町村としっかり調整をしながら推進すべき。
○量と質 ・質への転換も良いが、まだまだ公園は少ない。多摩地域でも田畑や里山はどんどん宅地化され、昔の緑は公園にしかない。まだほんの少し残された緑についても東京都で公園にするなりして残して欲しい。 ・量よりも質の考え方は妥当。しかし、東京においてはまだまだ量としての緑は必要である。特に既存の緑の保存、確保、補充、拡張は新たに造る緑より安価で簡単であり、今ある緑（樹林地、草地）の保全、活用に力を注ぐべき。 ・「整備と管理のあり方について」であるのに、整備に関する記述がほとんどないのはおかしいのではないか。
○ネットワーク ・連続した緑地空間や点と点を結ぶ緑地帯が未整備 ・西東京市には都立公園が一つも無く、不均衡を解消してほしい。石神井川は早急に水と緑に親しめる空間に整備し、小金井公園までネットワークした広域的な緑地帯の確保を。 ・水質の改善は「水と緑のネットワーク」の基本である。合流式下水道の改善など、水質について触れてほしい。 ・公園と公園をつなぐ、車等の危険のない遊歩道を。 ・新緑の美しい5月に、自宅近くの17号線沿いのいちようは見ても無残に剪定されています。既存の樹木の緑を最大に楽しめる政策をお願いします。 ・池袋西口通りに一本だけ立つヒマラヤシーダー、善福寺川護岸のヘデラ、JR 御茶ノ水駅対岸の植栽など、大きな効用を果たしている緑を再確認されたい。 ・玉川上水流域委員会の編成を呼びかけ、運動展開中である。非力で、真面目な住民は案外多く、総括する術、力、ノウハウ、財力等を持たない人々への配慮をお願いします。
○ニーズにあった公園づくり ・都立公園の個性が伝わっていない。 ・都立公園は特色に乏しい。公園ごとにテーマのメリハリをつけるべき。様々なペットの運動場や訓練施設、ペットを持たない人も動物とふれあえる施設、ガーデニングについて学び植物を楽しめる施設、新しいスポーツが体験できる施設など。また、歴史や特性など地域にゆかりの植物を取り上げ、名所をつくる。 ・夢の島公園で気持ちよく散策を楽しんだ後、食事と思ったのですが、しゃれっ気のないデザインのレストランで園内の食事は断念しました。夢の島マリーナのレストランも味気ないものでした。良い資産は持っているの、これを活用すべき。 ・既設の公園、特に昭和40～50年代に開設されたものは、①周辺の土地利用が変化し、公園の設計及び施設が合致していないもの、②周辺部での樹木の過大化による囲い込み現象などのため利用がしにくくなっているもの、も一部見られるので、積極的なリニューアルを進めてもらいたい。 ・石神井公園の「野鳥の森」の未利用地に「プレーパーク」をつくってはどうか。 ・スポーツ施設としての部分の整備にも力を入れて欲しい。野球場やサッカー場に芝生で緑を増

やしたり、広場をより安全に利用できるよう芝生に。 ・公園緑地をニュースポーツ（ターゲットバードゴルフ）の場としての兼用利用を提案する。
○生物 ・アゲハ・アオスジアゲハ・カラスアゲハの産卵の植物も必要。 ・公園の植物や施設管理、整備には、殺虫剤・殺菌剤・除草剤等の農薬、有害な木材防腐剤を使用した資材を使用しない。有害な虫が発生しやすい環境はつくらない。自然観察のできる公園づくりに重点を置く。 ・小さな昆虫や動物が安全に生息するには、多様な植物が生育出来る土が連続していることが必要。それを達成するために、土で被われた土地の割合“つち被率”という指標を設定して考えたらよい。
○庭園 ・江戸時代の庭園が今の東京にそのまま残っていること自体がすばらしい。今後もより良い姿で守って欲しい。できれば、庭園ができた当時の姿に復元できれば最高である。 ・山手線の内側にある庭園群で、過去１０年間、あらゆる種類の鴨類の渡来数が急激に減少している。極端に庭園内の樹木を間引き、剪定した庭園では、オシドリやマガモの姿が消えた。庭園を流行に合わせて変革することに問題がある。 ・江戸時代からの水道文化である玉川上水を都内の庭園まで復活させて、天水や井戸水に変えて利用できないか。
○防災 ・すべての公園に防災公園としての機能を充実させることを基本方針にすえてほしい。
○バリアフリー ・段差など不便な所が多い。高齢化が進むこれからの社会では公園の福祉化対策が必須。
○ヒートアイランド対策 ・ヒートアイランド対策には、エアコンをつけなくても住める住宅環境、車を使わなくて歩いて暮らせる街などからの議論が必要で緑ひとつのことではない。総合政策を実現できるような「枠組み」づくりを進めてほしい。
○緑と税 ・土地面積の一定割合に木を植えれば固定資産税に多少の控除がなされるような仕組みをもって、緑を増やすことはできないか。

【管理・運営】

意見
○全般 ・管理しやすいことにウエイトが置かれ、ソフト部分の調査・研究が不足。 ・管理者にとって必要最低限の管理という印象が強く、市民にとって、質の高い管理運営がされていない。 ・管理所の方々には、公園の魅力などの情報発信や、来園者に公園のことはどんな分野においても的確に答えられたり、ボランティアのコーディネートなどをするスペシャリストであったりといった公園の「コンシェルジュ」みたいな存在であってほしい ・常日頃から周辺住民などが集まるスペースを公園内に設けられればよい。場所によっては、地元名産品の販売や学校のカリキュラムに野外授業・青空教室などを盛り込むなど、公園内に人が留まったり、情報交換をしたりし、ゆくゆくは公園から何かを発信していくような「緑の停留所」のようなもの。
○情報 ・建設局のＨＰもそうだが、公園協会の都立公園の紹介も内容が画一的でおもしろくない。情報発信の役割を公園の利用者に委ねてみてはどうか。

・緑が日常生活にいかに不可欠のものであり、その価値がどのくらいであるかを金額で表してみてもどうか。 ・「公園の存在意義」や「公園の果たす役割」を「学習」したり、「普及」していくようなスペースやサービスがあるといい。 ・公園にも質を表す指標が必要
○協働・都民参加 ・NPOやボランティアとの連携を進めて、市民参加型の公園運営を目指してゆくべき。 ・NPOなどに段階的に管理運営を委ね、いずれNPOが自治的に運営するようにしていったらどうか。 ・協働・連携にあっては、実現したいサービスや公園の姿をしっかりと明示した上で、企画コンペ等の透明性の高い方法で応募団体を選考をしてください。 ・管理所において、ボランティアのコーディネート、環境教育プログラムの企画実践、NPOとの連携などについての業務を、専門知識や能力があって動けるNPOとのパートナーシップ、または委託としてはどうか。 ・安易に協働とか、都民・市民参加を解決策として唱えるのは危険である。 ・公園等の維持管理業務への一般都民の参加については、基本的にはその業務の困難さ、大切さを実感してもらい、専門技術への理解を深めてもらい、関係予算の必要性を認識してもらうことが大切である。 ・都立公園をフィールドとしてみどりの教室のネットワークを形成し、生徒は植物の栽培・育成や公園に生息する様々な生物についての学習をしながらキャリアを重ね、教わる側から教える側になり、積み重ねた経験を次の世代に引き継ぐような仕組みの学校《みどりと公園の都民カレッジ》を提案する。 ・住民とのハンドメイド的計画の推進 ・管理等を地域の高齢者の人々のNPO活動で行う。
○民間参入 ・民間参入により、デザイン面、集客力のある店舗をつくることで、公園全体が魅力ある公園に変わると思う。
○ホームレス問題 ・ホームレスの自立に向けた法律が施行された今、東京独自のホームレス対策を最終報告に盛り込むべきである。 ・大都市特有の問題にホームレス問題がある。適正管理を行うには、今後先行き不透明な社会情勢を考慮した方針を記述してもらいたい。
○犬と利用者の調整 ・犬との共存を意識した、老人の一人散歩でも、安全な公園にしてほしい。 ・犬などのペットの散歩させる場所と子供が遊ぶ場所が同じなのは、衛生的に心配です。「ドッグラン」を整備し、その分、犬などのペット禁止の場所を設けて欲しいと思う。 ・ドッグランの試行はまさに時代のニーズに合致した意欲的な取り組みだと思う。今後は是非とも、設置箇所を増やすとともに恒久的な施設にしていきたい。
○駐車場 ・警察との連携により、路上駐車を取り締まるような徹底的な巡回をしていただきたい。臨時的な予算措置を行うとともに、その後の住民、企業を活動参加させるアフターフォロー策の確立を併用すれば、一気に解決できると思う。 ・駐車スペースがない、駐車代高い。
○その他 ・木に食い込む樹名板をやめてほしい。 ・神代植物公園の温室付近に喫煙コーナーがあり、煙がひどく、飲酒している人たちもいて、迷惑である。駅も全面禁煙の時代、公園でも禁煙にしてほしい。